令和５・６年度　県教育委員会指定研究協力校

研究のまとめ

研究主題

対話を通して，学びを高め合う児童の育成

令和７年１月９日

薩摩川内市立川内小学校

目　　次

１ 研究の全体構想 ・・・3

２ 共通実践事項

（1） 対話活動の充実 ・・・4

（2） 振り返る場の設定 ・・5

３ 研究の実際

（1）第３学年算数「たし算とひき算」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

（2）第５学年国語「要旨を読もう『見立てる』」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

（3）第3学年算数「１けたをかけるかけ算」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

４ 成果と課題 ・・・12

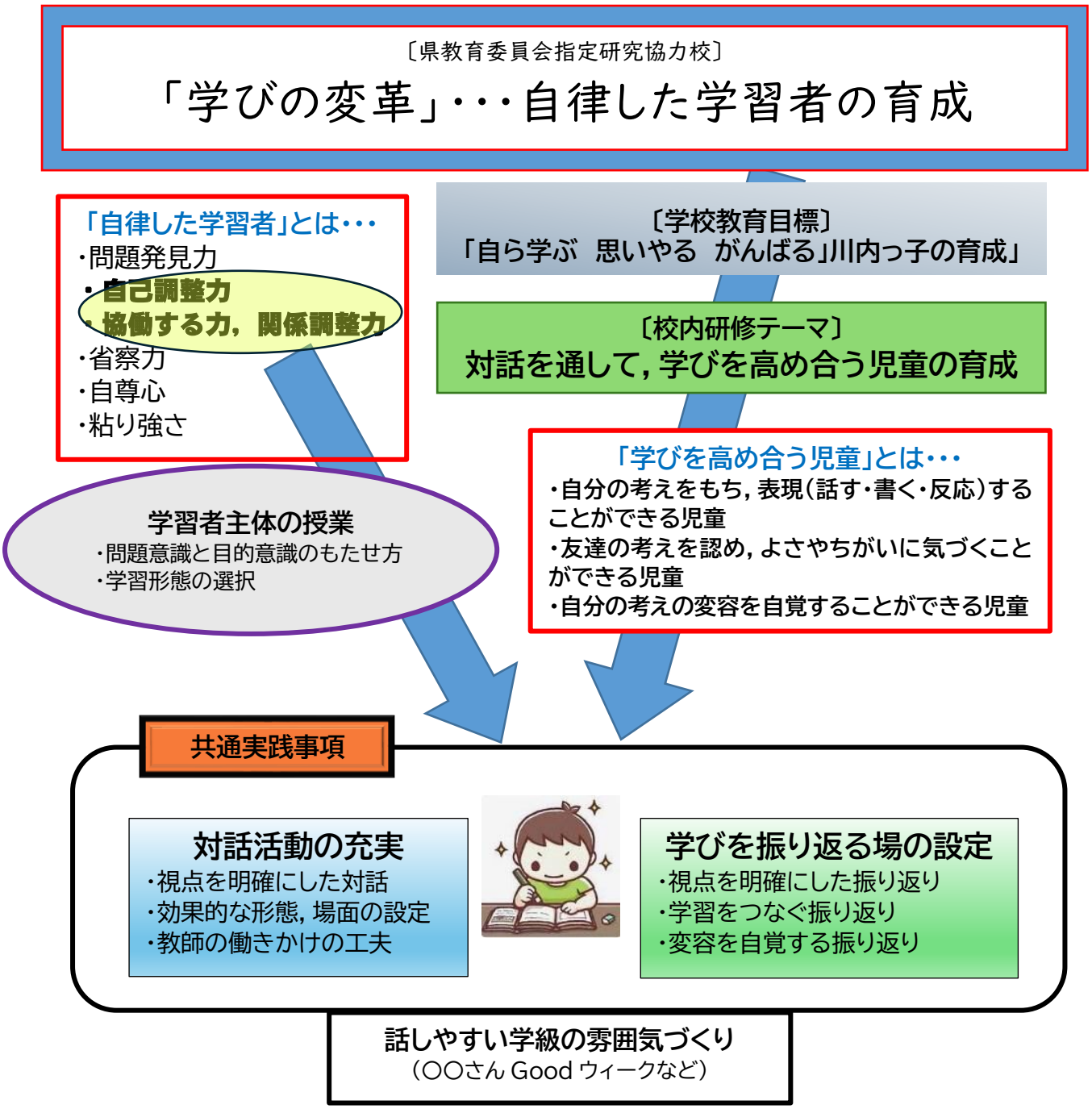
５ 研究のあゆみ ・・・13

Ⅰ 研究の全体構想

未来を生きる子供たちに求められる資質・能力として，自分と異なる他者と主体的・協働的に問題解決をしていく能力が求められている。

本校は，令和５年度，県教育委員会から「自律した学習者の育成」を目指して２年間の研究協力校の指定をいただいた。自立した学習者を育成するためには，従来の教師主導の受け身的な授業から，学習者主体の授業へと児童観，指導観を変えていく必要がある。

そこで，これまでに本校が研究を進めてきた「対話」と「振り返り」を中心に，研究テーマを「対話を通して，学びを高め合う児童の育成」として実践的に研究を進めていくことにした。

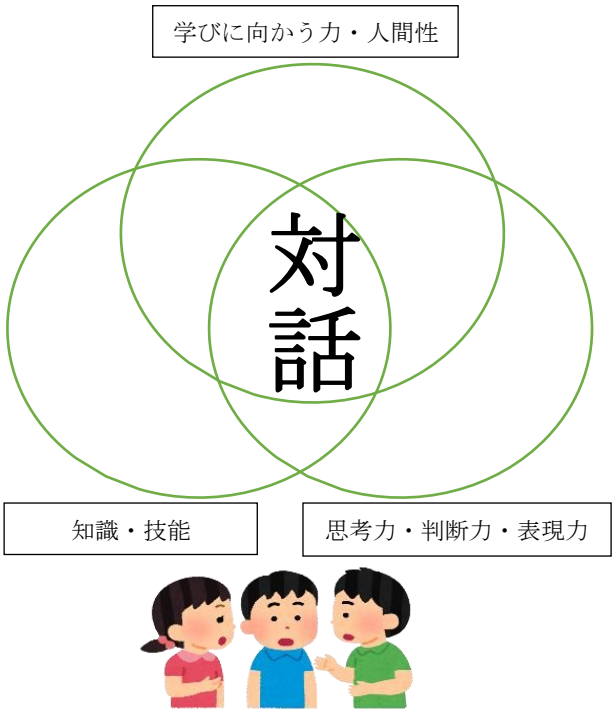


２　共通実践事項

（1）　対話活動の充実

「自律した学習者」（協働する力・関係調整）
・分からない点やできなかった点を見直し，次に生かそうとする子ども
・対話を通して対立やジレンマを乗り越えようとする子ども

「学びを高め合う」児童を育成するため，授業の中で対話活動を取り入れていく。
また，対話活動は，右の図のように，３つの資質・能力を一体的に育成するために位置付けていく。授業のどの場面で，どのような形態で対話活動を行えばよいかという視点をもって，授業改善を図る。



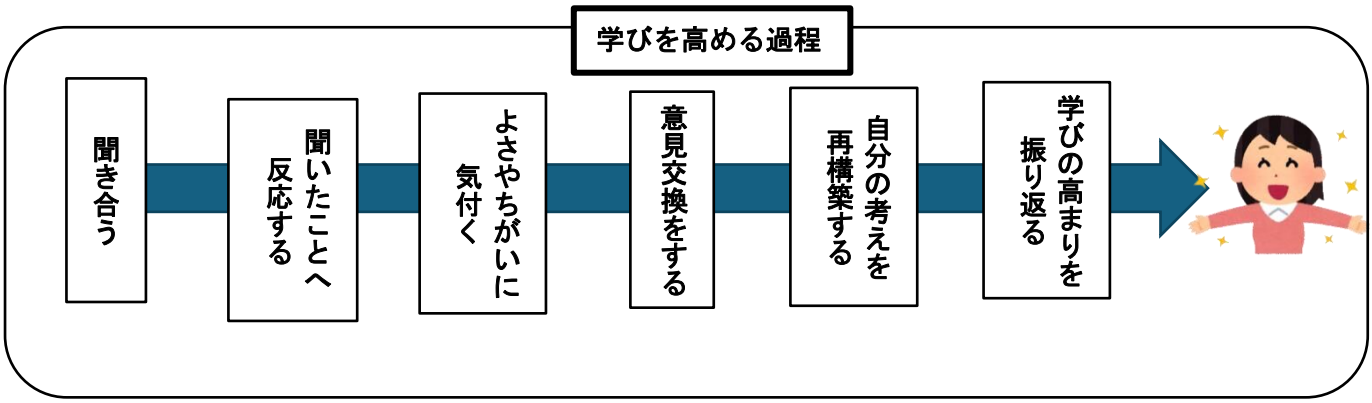
対話活動を行う際の留意点として，４つの視点を設けた。

対話活動の留意点

① 育成したい資質・能力の明確化　　１年目
② 対話活動の活性化
③ 教師の介入　　２年目
④ 対話のよさを実感させる振り返り

１年目は，①・②を中心にしながら対話活動を授業に取り入れた。実践していく中で，どのように教師が介入するかも重要であることが課題として出てきた。そこで，２年目は，③・④もしっかり視野に入れながら研究を進めた。

対話活動の充実による学びを高める過程として，次のように考えた。対話活動のスタートとして，まずは「聞き合う」。学年では区切らず，ゴールの「自分の考えを再構築する」「学びの高まりを振り返る」姿を目指しながら実践を積み重ねた。



（2）振り返る場の設定

「自律した学習者」（自己調整力）
・学びの見通しを持ち，自ら学びの方法を選択・決定し，自らの学びを調整しながら実行できる子ども

児童が主体的に学習し，どのような学びができたのかを自覚し，次の学習への意欲につなげるために，振り返る場を設定する。

川内小学校では，次の３つの点に留意して，振り返りをさせている。

① 視点を明確にして振り返る。
- きょうの学習は何をしたのか。
- わかったことやできるようになったことは何か。

② 学習をつなぐために振り返りを活用する。
- もっと知りたいことや調べたいことは何か。
- 前時の振り返りを読んで，今日の学習で何をしたいか。

③ 考えの変容を自覚する。
- 自分の考えがどのように変わったか。→広まり，高まり
- 何によって考えが変わったか。→対話活動のよさの実感

１年目

２年目

振り返りの方法として，次のような方法を示しながら，学級・学年に応じて実践している。

チェック法	回想法	三文振り返り	変容振り返り	YWT 法
（◎○△）	（何をした）	（何をした・何ができた・次なにをしたい）	（考えがどう変わった・何によって深まった）	（Y：やったこと・W：わかったこと・T：つぎにやること）

≪3 年生算数の振り返りの例≫　振り返りシートを作成。

↓「大きな数」↓　「三角形と角」→

10でわる計算ができた。10でわると，位が１つ下がる。100 も 1000 も０の数分，位が下がるはず。（その分０があれば）つまり，きのうのはんたい！

10000000 の位まで読めました。万の位と千までの位を分けたら読みやすかったです。０を書きわすれないようにしたいです。

今日は，なかま分けをしました。さいしょは，２つの辺が等しいことを考えていなかったのでまちがえてしまいました。そして今日学んだことで新しくおぼえたことが二等辺三角形と正三角形とただの三角形です。ポイントは，長さが等しい辺がいくつかあるかで分けられます。

≪６年生算数「ならべ方と組み合わせ方」の振り返りの例≫　ロイロノートで提出。

今日は四桁の整数は何通りあるかについて学習した。僕は、千の位に使われてる数字以外が百、十、一の位に2回ずつ使われていることに気が付いた。また、思いついた数字を適当に書くのではなく、そろえて書くと間違いが分かりやすくできるということも学んだ。

今日は【組み合わせが何通りあるか】の調べ方を学びました。最初は並べ方を調べた時の学習を生かしてやって12通りだったけど、1組と2組や2組と一組のように同じものを使っていることに気が付き図や表を使ってできた。

私は表をかいたけど、友達は図をかいていてパスワードの問題の時に図をかいてといてみたらちょっと簡単だった。

友達の意見を聞いて、表や、図とは別の考え方などが分かった。友達の意見をじっくり聞くというのが算数の考え方では大事になってくると思った。

３　研究の実際

３年　算数科　工夫して計算する
「たし算とひき算」

１　育成したい資質・能力

３位数や４位数の加法及び減法計算のしかたや，加法や減法の計算が２位数などの基本的な計算をもとにできることなどを理解し，３位数や４位数の加法及び減法の計算が筆算でできる。また，計算の確かめができる。

２　授業の流れ

学習過程	主な学習活動
問題意識をもつ 学習を見通す	１　問題場面を生活場面に近づけ，筆算を使わずに答えを求めるにはどうすればよいかという問題意識をもつ。 ２　これまでの学習を活かせないか見通しをもつ。
自分で考える	３　これまでの学習を活かして，工夫して計算することを確かめる。 ・足される数，足す数を分けて考える。 ・きりのいい数で考える。
友達と考える （対話活動）	４　どのような方法で計算をしたか話し合う。 ５　自分の考えと友達の考えの共通点や相違点について話し合う。
学習をまとめる	６　出てきた計算方法の共通する部分に着目させながらまとめる。
学習を振り返る	７　「学習したこと」「わかった・できたこと」「次への問い」で振り返る。

３　振り返りを活かした導入

前時の振り返りを確かめ，これまでの学習と比べることで既習事項と未習事項をはっきりとさせ，めあてを考えることができるようにした。こうしたことで，前時からの繋がりや新しい問いの発見など児童が主体的に学習を進めていくことに繋がった。

４　話し合いマスターへの道

本時では，一人学び⇒グループ学習の順に学習を進めた。一人学びで自分の考えをしっかりと持たせることが話し合いの際には重要であると考えた。また，話し合いでは，①相手の話を最後まで聞くこと，②反応すること，③「共通点」「相違点」を考えながら話し合いを進めることを意識することで話し合いが活性化するのではないかと考えた。

１人学び

グループ学習

＜ある話し合いの場面＞

A：答えは出せたんだけど，なんて説明すればいいのか分からない。

B：ぼくもA君と同じで，数を計算しやすい数に直して考えたよ。

A：そうなの？

B：ほら，35を40，46を50にして計算すると，40＋50＝90になるよね。多くした分の５＋４＝９だから90から９を引くと81になるよ。

A：ありがとう。じゃあ次は自分で説明してみるね。

A児は，これまでの学習から数を計算しやすい数に変えて計算をしていけば解けそうだと気付き，答えを求めることができていたが，それをうまく説明できていなかった。そこで，別の児童にA児の考えを一緒に説明してもらうことで自分の考えが明確になり，他の児童へ説明を始めた。A児は嬉しそうに説明をしていた。

5　学習の振り返り

「今日何をした」「どんなことが分かった・できた」「友達の良かったところ」という３つの観点で振り返りをノートに書かせて発表させた。

今日は筆算を使わないで計算する学習をした。頭の中で筆算をしていた。筆算って便利だなと思った。

今日は暗算を学習した。数をいろいろ分けたり，簡単な数にしたりして計算するのが楽しかった。

暗算を学習した。筆算の勉強をしてきたから筆算の考え方を使って解くことができた。次は，他の数でも計算してみたい。

暗算は意外と簡単だと思った。説明で困っていたら友達が一緒に考えてくれて，説明ができてよかった。

6　授業の考察

○　学習者主体の面から

本時における主体的学習を促したのは，これまでに学習してきた筆算を使えない状況でどのように計算をすればよいかという問題意識と，学習の目的達成に向けてどのように学習を進めるかという見通しをもったことである。

○　対話活動の充実の面から

自分が考えた計算方法や数の分け方を友達と比べることで，必然性を持った対話が生まれた。なぜそういう計算にしたのか，何に着目して数を分けたのかを聞き合うことで，加法や減法の理解につながった。しかし，一人の児童の発言に流されてしまうグループもあり，話し合いが止まってしまうことがあった。

○　学びの振り返りの面から

振り返りは「学習したこと」「わかったこと」を中心に少しずつ書く習慣ができていた。今後は，「友達との交流で気付いたこと」や「新たな疑問」がもてるように指導していきたい。

5年 国語科　文章の構成を捉える
「見立てる」

1　育成したい資質・能力

段落の関係や事例，理由を表す言葉に着目し，段落の並び方を考える活動を通して，要旨をとらえるための文章構成について理解することができる。

2　授業の流れ

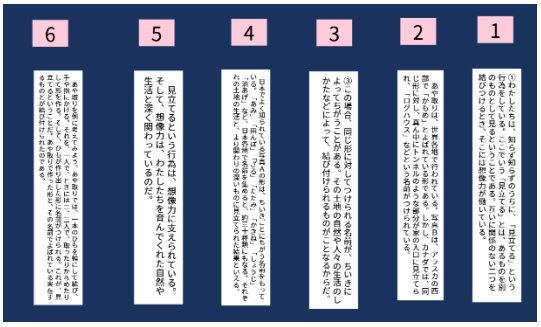
学習過程	主な学習活動
問題意識をもつ 学習を見通す	1　要旨を理解するために，文章構成を捉えるという目的をもつ。 2　ばらばらの段落をどのように並び変えればよいかという問題意識をもつ。 3　どの言葉に着目すればよいかという見通しをもつ。
自分で考える	4　ロイロノートに示されたカードを並び変える。
友達と考える （対話活動）	5　どの言葉に着目したかを根拠に，話し合う。 6　筆者の考えと事例がどこに書いてあるかという文章構成の型を話し合う。
学習をまとめる	7　着目した言葉や全体構成の型をまとめる。
学習を振り返る	8　「学習したこと」→「わかった・できたこと」→「次への問い」で振り返る。

3　学習者主体の授業

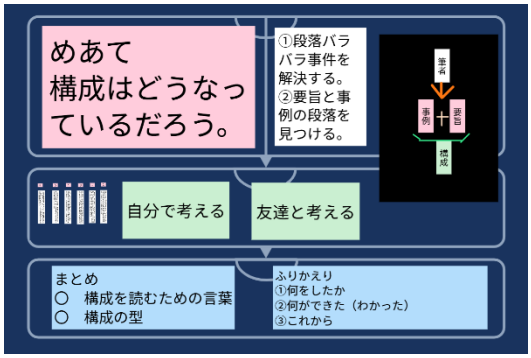
本時では，要旨を捉えるために文章構成を読むという目的を児童がしっかり自覚できていた。そして，バラバラの段落を提示することで，「どんな順番かな」「構成はどうなっているのか」という問題意識をもつことができていた。このように，学習目標と問題意識を明確にもたせることが重要である。

また，学習の見通しをもたせるために，モニターに本時の展開を示した。見通しには，学習のゴールとそのプロセスという２つがあり，どこを目指して，どのように解決していくかという見通しは，学習者にとってとても大切である。

バラバラにした段落



学習の見通し



4　対話の目的と教師の介入

本時では，対話の目的を明確にし，２つの場面に対話を位置づけた。何のために対話をさせるのかが明確であれば，どのような介入をすればよいかがはっきりしてきて，効果的な介入ができる。

具体的な介入の一部を紹介する。

・なぜそのような順序にしたのかを問うことで，事例と筆者の考えを読み分けることに気付かせようとした。

・考えが違っている児童同士を集め，説明し合うことで事例と筆者の考えの読み分けをさせようとした。

・自分の考えを他者に説明させることで，自分の考えの深まりを実感させようとした。

＜ある対話の場面＞

Ｔ：どうして筆者の考えが初めと終わりにあるの？
Ａ：だって，これまでの説明文ではそれが多かったから。
Ｔ：どこからそのような構成だと考えたの？
Ａ：う～ん。言えないけど・・・
Ｔ：Ｂさん，来てごらん。あなたもはじめと終わりに筆者の考えが書いてあると思ったの？
Ｂ：はい。
Ｔ：じゃあ，Ａさんに説明してごらん
Ｂ：初めにも終わりにも「想像力が働いているとか，想像力に支えられているとか，繰り返されているよ。大事なことは繰り返して述べるから，初めと終わりが筆者の考えだと思います。
Ａ：そうそう。
Ｔ：Ａさん，どう？納得した？
Ａ：はい。
Ｔ：じゃあ，Ｃさんにあなたの考えを説明してごらん。

Ａ児は，何となく双括型の構成には気付いていたが，それをうまく説明できていなかった。そこで，別の児童の説明を聞いて自分の言いたいことが明確になり，他の児童へ説明を始めた。Ａ児は嬉しそうに説明をしていた。このように「対話活動」は，ダイナミックで思わぬ展開につながることがある。

5　学習の振り返り

「今日何をした」「そして何が分かり・できて」「次に何をするか」という３つの観点で振り返りをノートに書かせて発表させた。また，既習の説明文の文章構成を捉える演習をさせ，学びの定着を確かめさせた。

6　授業の考察

○　学習者主体の面から

本時における主体的学習を促したのは，文章構成を捉えるために段落をどう並び替えればよいかという問題意識と，学習の目的達成に向けてどのように学習を進めるかという見通しを持ったことである。

○　対話活動の充実の面から

自分が考えた段落の並びを友達と比べることで，必然性を持った対話が生まれた。なぜそういう順番にしたのか，どこに着目したのかを聞き合うことで，段落相互の関係の理解につながった。

○　学びの振り返りの面から

振り返りは「Ｙ（やったこと）Ｗ（わかったこと）Ｔ（次やりたいこと）」の３観点で書く習慣ができていた。今後は，分かったことに対する「問い」がもてるように指導していきたい。

3年　算数科　かけ算の筆算の仕方の理解を深める
「１けたをかけるかけ算」

1　育成したい資質・能力

筆算の中にある空欄（被乗数）を求める活動を通して，（２，３位数）×（１位数）の筆算の仕方について理解を深め，正しく筆算で計算することができる。

2　授業の流れ

学習過程	主な学習活動
問題意識をもつ 学習を見通す	1　かけ算の筆算の仕方を理解し，これまで培った計算力を生かして，虫食い算に挑戦するという問題意識をもつ。 2　「１の位から計算」「乗数のかけ算九九」「くり上がり」に着目し，プロセスについての見通しをもつ。
自分で考える 友達と考える （対話活動）	3　一人で考えたり，ペアで考えたり，グループで考えたり，自分で形態を選択し，虫食い算の問題を解決する。 4　どこに着目したかを根拠に，話し合う。 5　筆算の仕組みの復習から，きまりの発見へと見方・考え方を広げる。
学習をまとめる	6　答えや考え方について全体で確認し，乗法の筆算の仕方をまとめる。
学習を振り返る	7　「わかった・できたこと」→「考え方やポイント」→「次に向けて」で振り返る。

3　学習者主体の授業

本時では，かけ算の虫食い算をするという目的を児童がしっかり自覚できていた。積がぞろ目になっているかけ算を提示することで，数字のもつ美しさを感じ取り，「やってみたい」という意欲をもつことができたと考える。

また，学習の見通しをもたせてから取り組ませることで，難しさを感じている児童も，「できそう」「やってみよう」という意欲をもって取り組むことができた。

問題を解決する場面では，形態を固定化せず，自分で選択させた。一人でじっくり考える児童もいれば，教室を自由に動き回り，友達と相談しながら解決する児童もおり，問題解決に向けて主体的に取り組む姿を見ることができた。

ぞろ目で「やってみたい！」

計算練習に取り組みましょう！

① ３７ × ３ ＝ １１１　かける数は全部３だね

② ７４ × ３ ＝ ２２２　答えがぞろ目になっているぞ！

③ １１１ × ３ ＝ ３３３　444，555，…と続くのかな？

④

⑤　999の次は1111かな？

学習の見通し

見通しのポイント

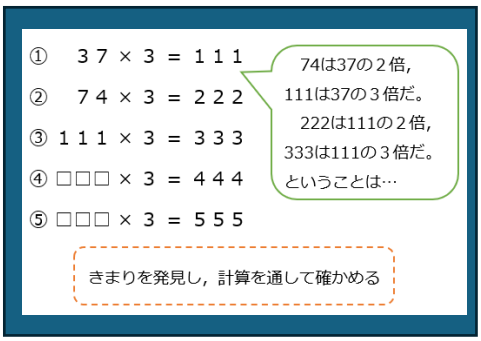
虫食い算を通して，筆算の仕組みを復習
・一の位から計算
・かけ算九九
・繰り上がり

4　対話の目的と教師の介入

本時では，虫食い算の問題を解決する場面に対話活動を位置付けた。前ページで述べたとおり，形態を固定せずに行うことで，児童が主体的に活動する場ともなった。

まずは，虫食い算をすることで，自然と計算練習をすることにつながり，解く過程で筆算の仕組みの復習になることをねらった。そして，対話活動で解き方を説明することで，理解を深めることができた。計算が早く終わる児童には，さらに発展して，「きまりの発見」をして考えが広がることを目的とした。実際は，きまりを発見した児童が１人だったため，対話活動の中での広がりはあまりなかったが，全体で紹介することできまりに気づき，新たな考え方に触れる機会をもつことができた。

また，６月の５年生の研究授業で，対話活動における教師の介入の大切さを確認していた。そこで，次のような介入を意識した。



- 答えを教えるだけにとどまらないように，どこから計算したのか，どうしてやればできたのかを説明させた。
- 筆算の仕方の理解を深めさせるため，なぜそのような順序で計算したかを説明させた。
- 考え方を広げるため，考えが違う児童や新たな考えを見つけた児童をつなげた。

＜ある対話の場面＞

Ａ：先生，おもしろいことに気づいたよ。（かける数が３７ずつ大きくなっていることを説明）
Ｔ：すごいね。（計算が終わった児童に）Ａさんがおもしろいことに気づいたよ。聞きに行ってごらん。
Ｂ：何に気づいたの。
Ａ：ほら，かける数を見て。（数字に矢印を書きながら）３７に３７をたすと７４になるでしょ。～

Ａ児は，自分が気づいたことをワークシートに矢印を書きながら説明し始めた。説明を聞いたＢ児は，自分でも計算して確認しながら，「本当だ。よく気づいたね。」とＡ児に伝えていた。そこで，教師は「かける数だけかな。」とヒントを出し，二人はさらに考え始めていた。

5　学習の振り返り

「できたこと・わかったこと」「考えたことやポイント」「次に向けて」という３つの観点で振り返りシートに書かせた。シートに書かせることでこれまでの学習の経緯が一目でわかるとともに，継続して書くことで振り返る習慣が身に付き，観点をおさえた振り返りが書けるようになった。

6　授業の考察

○　学習者主体の面から

本時における主体的学習を促したのは，ぞろ目の数字に関心をもち，虫食い算を解くという目的達成に向けて自由に動き回れる対話活動の場を設定したことである。

○　対話活動の充実の面から

「虫食い算」を解くために説明し合うことで，活発な対話活動が行われた。どのような順で計算したのか，考えるポイントは何かを聞き合うことで，かけ算の筆算の仕方の理解につながった。

○　学びの振り返りの面から

振り返りシートで，３観点で書く習慣ができていた。今後は，児童の振り返りを授業の中で活用して，さらに学習者主体の授業が展開できるようにしていきたい。

4　成果と課題

本校では，自律した学習者を育てるための学習者主体の授業改善に向けて，「対話」と「振り返り」に焦点を当てて研究を進めてきた。実践研究を通して，全職員で確認できた成果と課題を以下にまとめる。

（1）　学習者主体の授業

学習者主体の授業に最も重要なことは，学習者である児童が，問題意識と学習のゴール・プロセスの見通しをもつことである。授業実践の中では，問題意識，目的意識，学習の見通しをもった学習者が，学習方法や学習形態を選択して主体的に学習に取り組む姿が見られた。また，課題を児童の実態に合わせて工夫することで，学習に対する意欲が向上し，「やってみたい」「できる」と児童が感じることができた。

今後は，このような学習者主体の授業を日常化していく必要がある。また，教科や学習内容に応じて，問題意識や目的意識をどのようにもたせていけばよいか，学習環境をどのように整えていけばよいかなどについて研修を深めていきたい。

（２）　対話活動の充実

どの資質・能力を育成するために，どこにどのように対話活動を設定するのかを明確にしながら実践研究ができた。対話の目的が明確になると，効果的な教師の介入が期待できることも明らかになった。児童たちも対話活動を繰り返すことで，協働的な学びに慣れてきた。また，対話活動を取り入れることで，発表への意欲を高めたり，理解を深めたりすることができた。お互いの話を聞き合うことで，思いやりの気持ちも感じることができた。

課題としては，なかなか言葉にできなかったり参加できなかったりする児童への手立てである。教師の介入がなければ対話が続かない場合も多いので，伝える力を一人一人につけていかなければならない。また，対話活動の見届けや評価のしかたについても難しさを感じた。今後は，対話を通して深まった学びや対話の良さを実感させながら，より充実した対話活動をめざしていきたい。

（３）　学びを振り返る場の設定

何をして，何ができて（分かり），次は何をするといった基本的な振り返りの習慣化が図られたことが大きな成果である。また，授業の終末段階だけでなく，振り返りを次時の導入段階に設定することで，学習の連続性が保障できた。さらに，振り返りの指導によって，学びに向かう力・人間性等の涵養を図る指導ができた。振り返りを上達させていくためには，それに対してのコメントや評価をつけていくことや，上手に書けた児童の振り返りを紹介することなどが効果的である。振り返りによって，教師にとって授業の反省材料となり，授業改善につなげることもできた。

今後は，振り返りを主体的な学びにつなげていく研修を深めていきたい。具体的には，「できた・分かったこと」に対する問いをどうもたせるか，連続した学びをどのように実現していくか，主体性，協働性などの非認知能力をどのように育んでいくかについて実践研究を続けていきたい。

５　研究のあゆみ

年	月	日	曜	内　　容
令和５年度	５	１	月	・年間計画，研究の方向性の確認
		２９	月	・テーマ研修（理論），個人テーマについて ・学年部研修（研究授業に向けて）
	６	２６	月	・研究授業Ⅰ「算数」 「たし算とひき算」（第３学年　税所　崇　教諭）
	８	２１	月	・レポート報告会①(前期振返り)
	９	４	月	・学年部研修…前期振返りを受けて，後期の取組について
	１０	３０	月	・理論まとめ発表
	１	１５	月	・レポート報告会②(後期振返り) ⇒子供たちの成長，次年度に向けての改善案
	３	４	月	・研究のまとめ（成果と課題），来年度の研修について
令和６年度	４	１６	火	・年間計画，研究の方向性の確認
	５	２７	月	・研究授業に向けて（指導案検討）
	６	２４	月	・研究授業Ⅰ「国語」 「要旨を読もう『見立てる』」（第５学年　加藤　美土里　教諭）
	８	２１	水	・実践報告会（ロイロノートで発表）
	１０	２８	月	・研究授業に向けて（指導案検討）
	１１	１２	火	・研究授業Ⅱ「算数」 「１けたをかけるかけ算」（第３学年　森山　航平　教諭） ※「三方よし，学び合いプロジェクト（L・E・O）」における授業公開
	１	９	木	・２年間のまとめ　※ホームページで公開
	３	３	月	・来年度の研修について

第３学年　算数科学習指導案

令和５年６月２６日（月）５校時
１組　２２名　指導者　税所　崇

１　単元名　　たし算とひき算　（学校図書３年上）
２　目標
　３位数や４位数の加法及び減法計算のしかたや，加法や減法の計算が２位数などの基本的な計算をもとにできることなどを理解し，３位数や４位数の加法及び減法の計算が筆算でできる。また，計算の確かめができる。【知識・技能】
　（２位数）±（２位数）の計算のしかたをもとに類推するなどして，３位数や４位数の加法及び減法の計算のしかたを考える力を養う。【思考・判断・表現力】
　３位数や４位数の加法及び減法の計算のしかたを，既習事項を活用して考えようとする態度を養う。【学びに向かう力，人間性等】

３　指導上の立場
（１）研究主題との関連
　今年度「自分なりの考えを持ち，友達と伝え合ったり協力して解決したりできる児童の育成を目指して」を研修主題として，研究に取り組んでいる。
　児童一人ひとりが学習に対して問いを持ち，それを解決するために自分に合った方法で考えたり，友達の考えをヒントに考えを広げたり深めたりできるようにしていきたい。
　そこで，本単元では，次のような点に留意して指導していきたい。
【つかむ・見通す】過程
○　前時の学習や振り返りと比べることにより，既習事項と未習事項をはっきりとさせ，めあてを考えることができるようにする。
【調べる】過程
○　前時までの学習（ノートや振り返り）を活用して，計算の仕方を順序だてて説明できるようにする。
○　「まず」「次に」「そして」「最後に」「わけ（理由」などのキーワードカードを掲示することにより，筋道や根拠を意識して説明させる。
○　自力解決の際，自分の考えを整理したり相手に分かりやすく伝えたりするために図や言葉，式などを関連付けて考えるようにする。
【深める】過程
○　「アイアイカード」を活用しながらグループ活動を進める。
○　自力解決したことをグループや全体で交流する中で，自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
○　自分の考えを表現したり，友だちの考えを認めたりすることで，互いのよさに気づかせるようにする。
○　発表を聞いて共通点や相違点に気付いたり，感想を伝えたりできるようにする。
【まとめる・生かす】過程
○　既習の学びと共通点を見付けたり，計算しやすい数に変えていているという考え方に着目したりしながらまとめることができるようにする。さらに，
○　適用問題などに取り組むことで，数理的処理のよさや友達の考え方のよさを実感を伴って味わうことができるようにする。
○　振り返りの時間を設ける。
　・振り返りの視点を与えておく。
　例：はかせどん　　友達との交流で気付いたこと　　わがとも

4　本時のねらい　（２位数）＋（１，２位数）などの簡単な暗算が自分に合った方法で計算できる。

5　本時の実際（１２／１５）

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ 【○留意点　◇評価　☆視点】
つかむ・見通す	1　問題【３５＋４６】を提示し，めあてを立てる。 35 円のガムと 46 円のチョコレートを買いました。合わせていくらになるでしょう。 2　学習問題を確かめる。 どのように計算をすればかんたんにできるだろう。 〈方法〉 ・数をわけたらよさそう ・きりのいい数でかんがえたらいいかも ・位ごとに考えてみよう 3　学習の流れを確認する。	5	☆　前時の学習についてノートや振り返りで確かめる。 ○　問題場面を提示して，筆算を使わずに答えを求めることの必要性をつかませる。 ○　児童の発言を活かしながら学習問題を立てる。 ○　これまでの学習を活かして，工夫して計算することを確かめる。 ・足される数，足す数を分けて考える。 ・きりのいい数で考える。 ○　学習の流れをいつでも確認できるように黒板に掲示しておく。
調べる・深める	4　計算方法を考える。 （１）１人学習 ①　30＋40＝70　　5＋6＝11 70＋11＝81 ②　35 を 40，46 を 50 にする。 40＋50＝90　　５＋４＝９ 90－9＝81 ③　35＋40＝75　　75＋6＝81 （２）グループ学習 （３）全体で確認 ・グループごとに発表をする。	１０ １０ 5	☆　計算方法をノートに書き出し，考えを整理させる。 ◇　被加数や加数をどのように考えて計算をしたか，自分の言葉で説明できているか。 ○　一つの考えがまとまったら，ほかの方法でも考えられないか助言する。 ○　考えを共有することが目的であることをおさえる。 ○　それぞれの考えの共通点と相違点を考えるようにさせる。 ○　出てきた解き方の共通する部分に着目させながらまとめていく。
まとめる・生かす	5　本時の学習について確認する。 ・計算しやすい数になおして計算する。 ・位ごとに分けて計算する。 6　適応問題をする。 ６８＋２９ 7　練習問題をする。 ①　１８＋６ ②　４６＋３７ 8　本時の振り返りをする。 9　次時の学習を確認する。	7 3 5	☆　本時の学習を活かして，自分に合った計算方法で答えを求めさせる。 ○　どのように考えたかペアでお互いに発表させる。 ○　机間指導をしながら，個別に指導を行う。 ☆　本時の学習で，気付いたことや学んだことを振り返らせる。 ○　次時は，ひき算をすることを伝える。

6　評価　２位数）＋（１，２位数）などの簡単な暗算が自分に合った方法で計算できた。

ガム３５円　　グミ１８円
ゼリー２９円　　あめ　６円
チョコレート４６円
ビスケット　６８円

35 円のガムと 46 円のチョコレートを買いました。合わせていくらになるでしょう。

式　３５＋４６

学習の進め方
１人調べ　　分まで
グループ　　分まで
全体
練習問題

どのように計算すればかんたんにできるだろう。

児童の考え	児童の考え
児童の考え	児童の考え
児童の考え	児童の考え

式　６８＋２９

・計算しやすい数になおして計算する。
・位ごとに分けて計算する。

①　１８＋６
②　４６＋３７

第５学年　国語科学習指導案

令和６年６月24日（月）５校時
２　組　　計　２　３　名
指　導　者　　加　藤　美土里

１　単元名・教材名　要旨を読もう　「見立てる」（野口廣）

２　単元について

⑴ 単元の位置とねらい

本単元は，５年生になって初めての説明的な文章を読む単元である。文章全体の構成をとらえて，要旨を把握することが主なねらいである。

⑵ 児童の実態

本学級の児童は，４年時の説明的な文章において，双括型の文章構成を学び，考えとそれを支える事例の関係について叙述を基に捉える学習をしてきた。しかし，事前の調査では，言い換えの表現を見つけ出すことと，文章構成を捉えることに課題が見られる。

⑶ 教材の特性

教科書では，教材「見立てる」（野口廣）は，２教材構成の単元の練習教材として位置づけられている。「見立てる」の次の特性を生かして，ねらいに迫りたい。

○　本教材は，双括型の文章構成であるため，冒頭部と終結部を生かして，要旨をまとめることができる。

○　「見立てる」ことが，あやとりを例に説明されており，児童にとって理解しやすい教材となっている。さらに，けん玉や鉄棒といった身の回りのものと関連付けて，理解を深めることができる。

⑷ 指導に当たって

本校の研究内容を具体化するために次の点に留意して指導を行う。

①　学習者主体の授業

・　学習形態を児童に選択させる。具体的には，従来の固定的なグループ学習ではなく，一人で考える，ペアで考える，グループで考えるなどの学習形態を児童自身に選択させる。

②　対話活動の充実

・　第１時では，段落を並べる場面に対話を設定し，文章構成を捉えるための言葉や文章構成の型を捉えさせる。

・　第２時では，要旨を捉える場面に対話を設定し，事例と要旨を関連付ける思考活動を通して，要旨を捉えさせていく。

・　教師は，根拠となる言葉への着目を促したり，児童同士の考えを関連付けたりして，対話を活性化させる助言を行う。

③　学びを振り返る場の設定

・　学習の振り返りは，学習したこと，できたこと・分かったこと，次への問いの観点で書かせる。

３　目　　標

⑴　文と文の接続の関係や文章の構成の型について理解することができる。**［知識・技能］**

⑵　文章全体の構成を捉えて，筆者の考えとそれを支える事例を結び付けながら要旨をまとめることができる。**［思考力・判断力・表現力］**

⑶　問題意識をもち，友達と対話しながら学習に取り組むとともに，自らの学習を振り返って次に生かそうとすることができる。**［学びに向かう力・人間性］**

４　指導計画（全２時間）

小題材	主な学習活動	指導上の留意点（○）と評価の観点（●）
1	**「見立てる」の全体構成を捉える。** 1　「見立てる」の文章の構成をつかむ。 ①　説明文の読み方を知り，全体構成を捉えることについての問題意識を持つ。 ②　バラバラになった段落を並び替えることによって，段落相互の関係をつかむ。 2　双括型の文章構成から，筆者の考えの中心と事例が書いてある段落を捉える。	1　筆者の考えや事例を読むためには，全体構成を捉えることが大切です。 2　段落を正しく並べ替えましょう。 3　筆者の考えの中心が書いてある段落はどこでしょう。事例はどこに書いてあるでしょう。
2	**筆者の考えと事例を結び付けて，要旨を捉える。** 1　冒頭部と終結部を比べて読み，筆者の考えの中心を読む。 2　「中」で，筆者が挙げている事例と筆者の考えをつなげて読む。 3　要旨をまとめて「はがき新聞」に書く。 4　説明文の読み方をまとめ，次の学習に生かしたいことを「はがき新聞」に書く。 ①　筆者の考えの中心を読む。 ③　筆者の考えと事例をつなげて読む。	1　①と⑥の段落を比べて，同じようなことを述べているところを見つけましょう。 2　①と⑥の段落で筆者が述べていることは，どの事例で説明されていますか。 3　要旨の型（「筆者は，○○について，○○の例を挙げながら，○○と述べている。」）に合わせて要旨をまとめなさい。 4　説明文の読み方の中で，一番役に立ったことをはがき新聞に書きましょう。

５　本　　時（１／２）

⑴ 目　標

段落の関係や事例，理由を表す言葉などに着目し，段落の並び方を考える活動を通して，要旨を捉えるための説明文の文構成について理解することができる。

⑵ 指導に当たって

バラバラになった段落を並び替える活動を設定し，段落の関係や事例，理由を表す言葉などに着目して，文の構成を捉えることができるようにする。

⑶ 実　際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ（○）
つかむ・見通す	1　「筆者」「要旨」「事例」「構成」の用語の意味を知り，説明文の読み方を確かめる。 2　バラバラになった段落をもとに，文章構成に問題意識をもち，めあてをつかむ。 ・　バラバラだとどこに筆者の考えが書いてあるか分からないよ。 ・　並び替えれば，文の構成が分かるよ。 文章の構成は，どのようになっているのだろうか。 3　見通しをもつ ・　並び替えて構成が分かれば，筆者の考えがどこに書いてあるか分かるね。	(分) 8	○　説明文の構成を学習する必要感をもつことができるようにするために，バラバラになった段落を提示し，問題意識をもつことができるようにする。
調べる・深める	4　バラバラなった段落の並べ方について話し合う。 ⑴　手掛かりになる言葉を考える。 【着目する言葉】 ・段落のはじめの言葉　・文末表現 ・繰り返し，言い換え ⑵　ロイロノートに配付された段落カードを個人またはグループで並び替え，その理由を話し合う。 ・「～を例に考えてみよう」と書いてあるから，この段落は何かの事例が書いてあるね。（第２段落） ・この段落（第６段落）は，最初の段落と同じようなことが書かれているから，筆者の考えの中心になるのかな。 ⑶　全体で検討し，着目する言葉をまとめる。 5　筆者の考えはどこに書かれているのかについて話し合う。 ・同じことが繰り返されているから，筆者の考えは，はじめとおわりに書かれているのではないかな。	32	対話の目的 段落の関係や事例を表す言葉に着目させる。 ○　段落の関係を捉えることができるように，対話を設定する。その際，机間指導しながら，並び替えた理由を問うたり，子供同士の考えをつなげたりする。 ○　文の構成を捉えることができるようにするために，繰り返されている表現や文末表現に着目させながら，「筆者の考えはどこに書かれているのか。」を問う。
まとめる・ふりかえる	6　学習のまとめを行う。 「はじめ」と「おわり」に筆者の考えが書いてある。「中」には，事例が書かれている。 7　本時の学習を振り返るとともに，既習教材で構成の型を捉える演習をする。	5	振り返りの視点 「今日学習したこと」 「できたこと，分かったこと」 「次に向けて」

⑷ 評　価

段落の関係や事例，理由を表す言葉などに着目し，段落の並び方を考える活動を通して，要旨を捉えるための説明文の文構成について理解することができた。

第３学年　算数科学習指導案

令和６年11月12日（火）５校時
２組　23人　指導者　森山航平

１　題　　材　　１けたをかけるかけ算

２　題材について

⑴ 題材の位置とねらい

本題材では，位ごとのまとまりに着目し，乗法に関して成り立つ性質を生かしながら計算の仕方を考える活動を通して，（２，３位数）×（１位数）の計算の仕方について，乗法九九の基本的な計算をもとにしてできることやその筆算の仕方を理解することをねらいとしている。また，既習事項と未習事項の共通点や類似点，相違点をもとに，既習事項を発展させながら未習の課題を類推的に解決していこうとする態度を育てることもねらいとしている。

⑵ 指導の基本的な立場

乗法の概念は，乗法を適用する具体的な場面において具体物を操作したり，そのことを絵や図，式で表現したりしながら，乗法の意味や計算の仕方を考える中で培われていくものである。その中で乗法に関して成り立つ性質を見出し，活用することで，被乗数が大きくなっても積を求めることができるようになる。

そこで，本題材では，（２，３位数）×（１位数）の乗法を筆算を用いて形式的に処理するのではなく，半具体物を用いることで位ごとのまとまりに着目させ，２，３位数を何十や何百の幾つ分と捉えることで，乗法に関して成り立つ性質への理解を深めたり，筆算の仕方や意味，よさを実感したりできるようにしたい。また，前時・本時・次時の繋がりを意識することで，既習事項を生かしながら類推的に考えたり，課題を発展させたりできるようにする。

⑶ 児童の実態

本学級の児童は，第２学年「かけ算」の学習において，乗法が用いられる場面や意味について学習している。また，第２学年「九九をこえたかけ算」で，同数累加の考えをもとに，被乗数が 12 程度までの乗法について学習している。さらに，第３学年「かけ算」の学習おいて，乗法九九の表を活用したり，図に表したりすることで，交換法則や分配法則などの乗法に関して成り立つ性質を学習してきた。しかし，事前の調査では，被乗数が 20 を超える乗法において，同数累加の考え方を用いて考えたり，積を求められなかったりする児童も多く，乗法に関して成り立つ性質を活用することに課題が見られた。

⑷ 指導上の留意点

本校の研究内容を具体化するために，次の点に留意して指導を行う。

①　学習者主体の授業
- 　固定的なグループではなく，一人で考える，ペアで考える，友達と考えるなどの学習形態を児童自身に選択させる。
- 　課題を連続・発展させるために，児童の気付きや発見をもとに学習課題を構成したり，指導計画の順序を変更したりする。

②　対話活動の充実
- 　（２位数）×（１位数）の計算や筆算の仕方を考える場面に対話を設定し，何十や何百の幾つ分と捉えることで，既習の乗法九九が使えることに気付くことができるようにする。
- 　（３位数）×（１位数）の計算や筆算の仕方を考える場面に対話を設定し，（２位数）×（１位数）の考え方をもとに類推的に考えることができるようにする。
- 　教師は，位取りを意識させたり，前時までの学習を関連付けたりすることで，対話活動を活

性化させる助言を行う。

③　学びを振り返る場の設定

・　振り返りは，できたこと・分かったこと，考え方やポイント，次に向けての観点で書かせる。

３　目　　標

(1)　乗法の計算が九九などの基本的な計算をもとにしてできることや，（２，３位数）×（１位数）の筆算の仕方を理解し，筆算で正確に計算することができる。**（知識及び技能）**

(2)　（２，３位数）×（１位数）の計算の仕方について，具体物や図，式などを関連付けながら表現することができる。**（思考力，判断力，表現力等）**

(3)　（２，３位数）×（１位数）の計算の仕方について，友達と対話しながら粘り強く考えるとともに，自らの学習を振り返って次に生かそうとすることができる。**（学びに向かう力・人間性）**

４　指導計画（全 10 時間）

小題材	主な学習活動	指導上の留意点(○)と評価の観点(●)
何十、何百のかけ算(1)	1　（何十），（何百）×（１位数）の計算の仕方を考える。	○　具体物を操作したり，図に表したりすることで，10 や 100 が幾つ分と捉え，答えを求めることができるようにする。 ●　10 や 100 を単位として，答えの求め方を考えることができる。
（2桁）×（1桁）のかけ算(3)	2　（２位数）×（１位数）の計算の仕方を考える。 3　（２位数）×（１位数）で筆算の仕方を考える。 4　（２位数）×（１位数）で繰り上がりのある場合の筆算の仕方を考える。	○　具体物操作や図に表すことを通して，被乗数を位ごとに計算すればよいことに気付くことができるようにする。 ●　分配法則を用いて，（２位数）×（1 位数）の計算をすることができる。 ○　位取りを重視することで，数字の意味を捉えることができるようにする。 ●　乗法の筆算の仕組みを理解し，筆算で計算することができる。
（3桁）×（1桁）のかけ算(3)	5　（３位数）×（１位数）の計算の仕方を考える。 6　（３位数）×（１位数）の筆算の仕方を考える。 7　（３位数）×（１位数）で繰り上がりのある場合の筆算の仕方を考える。	○　（２位数）×（１位数）の計算の仕方を想起することで，類推的に（３位数）×（１位数）計算の仕方や筆算の仕方を考えることができるようにする。 ●　前時と関連付けながら，（３位数）×（1 位数）の計算をすることができる。 ●　（３位数）×（1 位数）を筆算で計算することができる。
暗算(1)	8　積の見積もりをもとにして，（２位数）×（１位数）の暗算をする。	○　十の位から計算することで，積の見当を付けることができるようにする。。 ●　積の見積もりをもとにして，（２位数）×（１位数）の暗算ができる。
単元末(2)	9　既習事項を確かめ，理解を深める。 10　（２，３位数）×（１位数）の筆算の被乗数を求める。(本時)	○　理解が不十分である児童に対して，個別に指導を行う。 ○　筆算の被乗数を求めることで，筆算の仕方を振り返ったり，理解を深めたりできるようにする。

５　本　　時（10／10）

⑴ 目　標

筆算の中にある空欄（被乗数）を求める活動を通して，（２，３位数）×（１位数）の筆算の仕方について理解を深め，正しく筆算で計算することができる。

⑵ 指導に当たって

本時の指導では，計算の順序や繰り上がりを意識させる必要がある。そこで，これまでの学習を振り返りながら，筆算に取り組むことができるようにする。また，積がぞろ目になっていることや被乗数と積が比例の関係にあるなど，児童の気付きを生かしながら，課題を発展させていく。

⑶ 実　際

過程	主　な　学　習　活　動	時間	教師の具体的な働きかけ(○)と評価(●)
つかむ	**１　学習課題を受けとめる。** 計算練習に取り組みましょう。 ①　37×３（111）　②　74×３（222） ・　答えの数字が連続しているね。 ・　次の問題の答えが予想できそう。 ③　111×３（333）　④　□×３＝444 ・　やっぱり数字が連続しているね。 ・　かけられる数が分からなくなったよ。 ・　999 の次は，1111 になるのかな。 **２　学習問題を焦点化する。** 答えの数が同じになるかけ算を作るためには，どうすればよいだろうか。	(分) ↑ 7 ↓	○　前時までの学習内容を振り返ることで，乗法の筆算の仕方について想起できるようにする。 ○　「次の答えはどうなりそうか」と尋ねることで，積がぞろ目になっていることに着目できるようにする。 ○　積がぞろ目になることや乗数が３であること，被乗数が分からないことを確認し，「どうすれば，かけられる数が分かるか」と問うことで学習問題を焦点化できるようにする。
見通す	**３　解決の見通しをもつ。** ・　被乗数はおよそどれくらいか。 ・　何の位から考えればよいか。	↑ 3 ↓	○　かけ算の筆算の仕方や暗算の学習を想起することで，被乗数を予想できるようにする。
調べる・深める	**４　被乗数を求める活動を行う。** ⑴　個人またはグループで，答えや考え方について確認しながら進める。 ・　繰り上がりがあるから，一の位から計算するといいよ。 ・　繰り上がりを踏まえて，かけられる数を考える必要があるね。 ⑵　答えや考え方について，気付いたことを全体で確認する。 ・　答えもかけられる数も２倍，３倍，…，と増えているよ。 ・　この考え方を使うと，早くかけられる数が見つけられそう。	↑ 27 ↓	対話の目的 筆算の仕方を振り返ることができるようにする。 比例の関係に気付き，見方・考え方を広げられるようにする。 ○　「答えやかけられる数はどのように変化しているか」と問うことで，被乗数と積の関係（比例の関係）に着目できるようにする。 ○　「なぜ，積が 1111 にならないのか」と問うことで，その理由を考え，筆算の仕方や比例の考え方についての理解を深めることができるようにする。 ●　かけ算の筆算を正しく行いながら，被乗数を求めることができる。
まとめる・振り返る	**５　本時の学習のまとめをする。** ○　被乗数を求める方法について，乗法の筆算の仕方と比べながらまとめる。 繰り上がりに気を付けながら，一の位から順序よく考えるとよい。 **６　振り返りを行う。**	↑ 8 ↓	○　乗法の筆算では，位を揃えて書き，一の位から計算したことを確認する。 振り返りの視点 「できたこと・分かったこと」 「考え方やポイント」 「次に向けて」

⑷ 評　価

筆算の中にある空欄（被乗数）を求める活動を通して，（２，３位数）×（１位数）の筆算の仕方について理解を深め，正しく筆算で計算することができたか。